

## 在日ロシア人と取り組んだフードバンク活動

江本 大輝

2/26(日)天気にも恵まれて、昨年末に続いて板橋区内のNP0小豆沢・志村フードバンクの会のフードパントリー（配布会）に参加することができました。この取り組みは、本誌2月号でも日向寺常任理事が寄稿してご報告していただきましたが、たくさんの人の縁があり実現することができました。この場を借りてご協力、お力添えいただいた皆様に心より感謝申し上げます。今回も病院の駐車場にて、予約した来場者200人弱の中の希望者にソバの実を配布させていただきましたが、前回とは別の在日ロシア人が4名応援で参加してくれました。そばの実には日本人には馴染み無い食材ですが、事前調理したソバの実をガリーナさんが遠方より持参してくれて、来場者への紹介、試食などできました。またグローバル・ウィッシュ(株)のエレーナさんが商品のイワンチャイを（賞味期限が近いということで）大量に持ち込んでくださって、気前良く配布してくださいました。来場者から感謝の言葉もたくさん頂きました。前回（昨年末）もそうでしたが、あらためてチャリティー活動に取り組むロシアの方々の優しさ、行動力にも心を打たれるものがありました。

ウクライナにおける現下の戦争は私たち日本人にも衝撃を与えていますが、私がこの取り組みを思いついたのは国内ロシア関連の物販も大変滞って苦勞している関係者をサポートしたいという当協会内の意見や、ちょうど最近注目されているフードバンクの取り組みに私自身関心を持っていた事など



がきっかけとなりました。当初ソバの実には私自身もあまり馴染みはなく、むしろ今回の取り組みの関係で調べながら自分で調理してみたところ、実は貴重で魅力的な食材であると認識するに至りました。

話は少し変わりますが、現在、日口交流が直面している情勢は大変厳しいものです。日本がそれなりに繁栄できた

のは、一定のルールや平和の恩恵にもよるものですが、世界は変化し多極化した国際情勢になりました。グローバルな課題の解決に、相互協力がいっそう求められる時代となっていますが、力による解決にまかせていては、ますます危険になる事が予想されます。日本人が近隣と協力していくことを考えた時、ロシアは大きな可能性をもったパートナーであると感じています。私自身は18年も前になりますが、1年ほどロシア現地で仕事した縁もあり、ロシアの魅力に感じ入って交流協会に入っていますが、ロシア語はあまり分かりません。現在は日本のメーカーで開発職として働きつつ、週末等で交流活動しています。

今回、在日ロシア人の方々とも交流、取り組むことができたのはすばらしい経験でした。今後も一緒に取り組めることを探し、交流の機会につなげていきたいと思います。

(常任理事)